

ゲートボールの普及・推進に取り組むウガンダ人

在ウガンダ日本国大使館

1 ゲートボールは格好いい

日本ではお年寄りのスポーツというイメージが強いゲートボールですが、実は世界 50 か国以上でプレーされており、国際大会も開催されています。そこでの評判は、ゲートボールは知的で格好いいといったものが多いようです。実際にプレーを観戦させてもらおうと、ゲートボールは、巧みなボール運びとチームプレーを要求される非常に戦略的なスポーツです。そして、ここウガンダでもゲートボールに魅せられた青年が、日々練習に取り組み、熱心に普及活動をしています。

2 ウガンダにおけるゲートボールの歴史

ウガンダにおけるゲートボールの歴史はそう古いものではありません。ウガンダにおけるゲートボールの歴史には一人の青年の熱い思いが関わっています。もともとウガンダでは、台湾発祥のゲートボールによく似たスポーツ、ウッドボールが広く親しまれていましたが、ウガンダの最高学府マケレレ大学で経営学を学んでいたロバート・バカゼさんは、2014 年、インターネットの動画サイトでゲートボールの試合を目にしました。以来、バカゼさんは、ゲートボールの魅力に引き込まれ、日本ゲートボール連合へアプローチをしました。日本ゲートボール連合から 1 セットの用具を寄贈され、熱心に練習に取り組んでいたバカゼさんですが、2017 年には、日本ゲートボール連合の協力も得て、バカゼさんの訪日が叶ったのです。それ以来、バカゼさんはマケレレ大学を含むウガンダの 6 つの大学でチームを編成し、練習に励んでいます。

3 バカゼさんの夢

2019 年、マケレレ大学を卒業したバカゼさんですが、もっと勉強を続けたいし、アフリカにゲートボールを普及させたいと、熱い思いを語ります。現在、バカゼさんは、ウガンダ国内の中学校でゲートボールの指導にあたるのみならず、ケニア（ケニヤッタ大学）やタンザニア（ダルエスサラーム大学）での普及活動を続けています。残念ながら、ウガンダ・チームは 2018 年にブラジルで開催されたゲートボールの国際大会には参加できませんでしたが、今年 1 月、バカゼさんは、ゲートボールの東アフリカ大会を開催したいと、その夢を語りました。

(了)